

うちの
みんなで
読んでね

春の彼岸会をご縁に

春の彼岸会に牡丹餅を作る風習が、昔から全国的にありましたが、その時期に牡丹が咲いている地域は滅多にないことと思います。開花の時期は一般的には4月から5月、北陸より北に行けば、もっと遅い時期になりましょう。花カルタでは6月、俳句の上での牡丹は夏の季語ですが、それでも春の彼岸会に牡丹餅なのは、この時期になると、樹木の芽吹きを感ずるからでありましょう。

ところで、彼岸とは阿弥陀如来の浄土を指す言葉です。この浄土へ往生するには、南無阿弥陀仏の名号を聞かせていただくばかりです。親鸞聖人は「一念他念文意」というお聖教に、

「門其名号」というのは、本願の名号をきくとのたまへるなり。きくというは、本願をききて疑ふころなきを「聞」といふなり。またきくというは、信心をあらわすみのりなり と示されています。

近年は、お彼岸会にお墓参りされても、牡丹餅をお供えする人も滅多にありませんが、お寺には是非お参りになられて、ご法座でしっかりとみ仏のご本願のいわれを聞いていただき、信心の上から報恩の念仏を申し込みたいと思ふことでもあります。

そして信心を賜り、浄土に生まれて仏になり、この世に還って人々を救う身とさせていただく仕上げを喜ばせていただきたいものです。(出典 仏教家庭学校)



2月、西光寺若婚礼にて表門からお練り。役者（法要・式の進行責任者）を務める。

痛ましい結末となったIS（イスラム国）人質事件の衝撃。考えることは多々あるが、彼の志には敬意を持ちたい。紛争と貧困に翻弄される子どもや家族らの姿を伝え続けた。どれほどの不条理さ、悲しみと怒りを命がけて体験されたのかと思う時、愚かさや危機に向きあうべき僧侶としてのわが身を振り返ってしまう。

後藤健二（ジャーナリスト）

そう、取材現場に涙は
いらぬ。ただ、ありの
ままを克明に記録し、人
の愚かさや醜さ、理不尽
さ、悲哀、命の危機を伝
えることが使命だ。
でも、つらいものはつ
らい。胸が締め付けられ
る。声に出して、自分に
言い聞かせないとやって
られない。

わしひとりぞ

めあての

本願の

ありがたさ

◆ 仏典童話作家・花岡氏は、妙好人（在家の篤信の念仏者）として知られる清九郎さんの、ご法儀の味わいや独特な生き方を描き出されます。それはみ教えを他人事ではなく、つねに「自分自身」「この私」に照らし合わせて受け止めている姿でした。

「歎異抄」後序には「聖人のつねの仰せには、『弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば、ひとへに親鸞一人がためなりけり。さればそれほどの業をもちける身にてありけるを、たすけんとおぼしめしたちける本願のかたじけなきよ』と述懐されています。

仏説無量寿経には、法蔵菩薩が迷いの衆生を救いたいとして、極めて長い間思惟して四十八願の誓いを立て、あらゆる修行の果てに阿弥陀仏となられたとあります。その根本の願いを他力本願と言い、あらゆる人々に向けられています。聖人は「親鸞一人がため」と言われます。

例えば、説教や講演などで大勢の一人として話を聞く時、真剣になって聞いていると、他の人のことは気にならなくなつて、あたかもこの話は自分のためだというような感覚になることがあります。十方衆生を対象としていても、もし道を求める人にとつては私一人のこととして本願を受け止めるのは特別なことではありません。しかし容易でもないでしょう。

聖人は自ら「愚禿が心は、内は愚にして外は賢なり」と厳しくご自分の罪悪深重を見つめられました。聖人も清九郎さんも、「このような底下の凡夫の自分が願われている」阿弥陀仏のご本願にこそ救われる身であったとよろこばれるのです。（引用「心に響くことば」「月々のことば」）

教えて、お坊さん ② 「先祖や亡くなった身内は大事やけど仏さんて.. ?」

先祖のためにはお経さんあげてるけど、仏さんに対してはよう分からん..と言われるのは、ある意味もつともなことでしょうね。先祖崇拝、神仏混合の歴史から来る日本人の一般的な精神性として、多くの方が感じておられることではないでしょうか。

八百万神の日本に仏教が伝来しておよそ1500年、一般庶民の信仰に広がって（鎌倉初期）から約900年ほど経ち、葬儀が各宗派仏式で営まれるようになって500年ほどと研究されています。仏壇でのお勤めや法事でも、それをおろそかにするとご先祖が浮かばれない、バチが当たるのでは、という素朴な心情はまだ少し現代人にも残っているでしょう。

しかし昨今、都市化核家族化が進み、不可思議なものへの畏敬の念は薄れ、自己中心的な欲望や振る舞いに歯止めが効かなくなってきました。大切なものへの愛情も、執着に変われば不安や思い込みを生み出し、やがて暴走しかねません。奇麗ごとでなく自分の暗くドロドロした部分や、抱え込んできた業を見ていくのは誰も厳しいものです。

しかしそこに気づかせてくださるのは物事の真理＝目覚めた存在からの働きかけです。それも亡き人が先に仏となって願いをかけてくださるから、そしてまた私もいずれ同じ仏という世界に生まれ変わってゆくという安心感は、生老病死の不安を済みます。亡き人のご縁を通じて、自分の愚かさを写し出し、律していく教えに触れ、その働きに感謝する場が仏事の醍醐味ではないでしょうか。（参考「連研ノートE」/本願寺派教化部 ほか）

「東日本大震災四周年追悼の集い in 福井にて」

◆ 3月8日(日)午後、超宗派で作る TERRA ねつと福井で開催もはや四回目。今年は当本願寺派・西別院門徒会館を会場に開かれ、事務局として準備に追われた。当日、一般参加者も約 100 名ほど来場され、席はほぼ満席となって一安心。



第一部は追悼式典、今年はキリスト教の若い司祭さんもお二人加わり、7 宗派計 18 名の宗教者の方に出仕していただいた。主催者側で作成した散華（紙の花）には 20 種のメッセージが印刷され、客席に舞った。



第二部は歌や朗読、支援に継続して行かれた方のミニトークや現地からのビデオレター、寺族婦人会合唱団・コール無憂華さんの合唱演奏で構成。ビデオレターは岩手県陸前高田や福島県二本松などの方々から 8 名ほど、現地の様子や思いをそれぞれに語られた。



ボランティア有志が集まった、全く手作りの場ではあるが、来場者からはおおむね肯定的な感想も聞かれたようだ。勿論、ここで紹介できた現地の声はごくごく一部分でしかないし、集まりとしても十分に語り祈り尽くせているとはまず言えない。ただ、この日をどのように迎えたら良いか思案されていた方には、ある程度の場を提供できただろうし、震災に対しての思いを新たにさせていただけたのではないかと。被災地・避難地では過酷な日々が続く一方、当時を忘れながらも新しい日々を迎えるのは人間のサガであり、良し悪しではない。

今回、同じ宗派の方々と一緒に仕事ができ、また他宗派の方々ともご縁が太くなった。少しずつではあるが宗教者としてのつながりが広がって行くのが嬉しく、それが我々として震災に対する供養のひとつになるかもしれない。

★被災された方から届いたメッセージの一部



◆2011年3月11日から、私の人生は変わりました。

原発事故により、見えない不安が私を追い詰めました。あんなに好きだった可憐な草花が触れなくなりました。あんなに心地よい風が恐ろしいと思

うようくなりました。あんなに美しいと思えた山を見ると哀しい気持になりました。朝、毎日、地域の放射線量の値を新聞で確認するのが日課になりました。

子ども達は今までと全く同じようには戸外で遊べなくなりました。親の顔色を見て、「この葉っぱには放射線はついていない?」と尋ねるようになりました。砂場は室内にあるものになりました。

どうして、何も悪いことをしていないのにこんな想いを味わわなければならないのか?と、子ども達の未来を想って悔しくて哀しくて泣きました。

福島は自然が美しい本当の空がある県だったのに。野菜が美味しくて水が美味しくて空気が美味しくて果物が美味しくて…。返してほしい。元に戻してほしい。望みはそれだけでした。

嘘をつかれ騙されて「実は、あの時本当は…」という事実が次々に明るみに出るうちに、人を信じるのが怖くなりました。哀しみと怒りで震え、この国に絶望しました。

それでも…いつまでも下を向いてはいけなと思い始めたのは、時間が経過していく中で「ひとりじゃない」と思えたからです。応援してくれる人が実はたくさんたくさんいてくれることにも気づいたからです。子ども達の笑顔を守るためには、大人が下を向いてため息をついているのでは



なく、上を向いて涙をこらえるのではなく、前を向いて「今」出来ることを、子ども達の未来のために未来が希望の持てるものになるように頑張ろうって思えたからです。

保育士の私は、この地域に一人でも子どもがいるならその子が笑顔になれるようにやれることはなんでもやろうと思いました。きっとまだまだいろいろあるけれど、たくさん学んでたくさん工夫して、たくましく生きるぞって思いました。

時間の経過と共にもうすでに福島の事は過去のことになってしまっているのではないかとと思うことが多くなりました。もう震災前には二度とは戻れないと覚悟は決めました。生活しなければならぬので細かいことに神経質になっていると生きていけないのです。決して気にしていないわけじゃない。

どうか、一生懸命考えて自己選択してきた福島の人たちの今を否定せずに比較せずに応援してください。福島で明るくたくましく頑張る私達、走り続けてクタクタです。どうか認めてください。応援してください。無関心はやめてください。そして、福島を忘れないでいてください。

今もなお仮設住宅で心を痛めているお年寄りがたくさんいます。人が住めなくなった真っ暗な闇が広がる地域があります。除染が進んでいない場所がたくさんあります。

そして、今この時間も、この国を守るために原発で命を懸けてこの事故を収束させるために必死で仕事をしている戦士たちがいます。そのことだけは忘れてはいけません。彼らに心から感謝しています。

祖父の 25 回忌法要のお念仏が
降り続く雪のように
静かに 私の肩に積もっていく

家族と
お念仏
の風景

嫁いで二年 切迫流産で実家に戻り
長く伏せることになった
沈んだ心は 些細なことも拒んだ
カーテンから漏れるかすかな光さえ

三里山北側の麓 小さな村 私が産まれた
とき 病院に見舞いに来た祖父は
「なんや、メロッチョか、帰りに川に捨てて
帰れ」と言い
母はお乳がとまるほど 気を病んだ
それもそのはず 私の父は祖父にとって
六番めにやっとできた男の子で
女の子がこりごりだった
案ずることはなく 祖父は私を孫の中で
誰よりもかわいがった

鬱陶しかった

皆 働きに出て 誰もいない日中
祖父がりんごを剥いて 持ってきてくれた
震える手で そっと枕元においてくれたの
に ありがとうが言えなかった
でこぼこのりんごを頬ばり 一気に情けな
さがこみ上げてきた
祖父の心に 素直に答えられない自分は
ただ惨めだった…

よく かたぐるまをしてもらって畑へ行った
背の高い祖父の 丸坊主の頭の感触を
小さい掌のまま覚えている
雲が晴れお日様が出ると クワをおいて手
を合わせていた 私と一緒に手を合わせた

御文章の前の講話が 耳に入ってくる
気がつくとき さっきまで 積もっていた 肩
の雪は消えていて
雪見障子の外に 降りしきっている 赤い
蠟燭の灯明が 揺れている

喉頭癌で声を失ったとき私は高校生だった
すでに祖母は他界して ただ 母に頼る
日々となった 私をかたぐるまして歩いた
道を 一人 散歩し そのほかは 新聞を
隅々読むだけが日課になった

祖父が結んでくれる 家族 叔母や従兄弟
との 久しぶりの時間
学生時代 祖父をモデルに 写真家気取り
で撮った 遺影を見ながら
はにかんだ笑顔に 救われたような
やっとな報いたような 二月の午後

結納の日 振袖姿の私を見て 目を真っ赤
にして泣いていた

(知人のあるエッセイから)

★TERRAねつと作・メッセージ入り散華 (一部)

体の力を抜こう。
筋を弛めると自ずから下腹
で呼吸するようになる。体の力
を発揮する第一の方法である。
疲れたまま眠るより、
乱れたまま心を抑えるより、
頭で判らなくとも、
まず背骨で息をしよう。
静かに腰まで吸い込んで、
吐くのはただ吐く。
宇宙の心に通う
道筋になる。
(野口晴哉 1911-1976)

想
ツ
テ
ィ
ル
ヨ
ア
ナ
タ
ノ
コ
ト
コ
ノ
空
ノ
向
コ
ウ



いつでもどこでも
仏とつながっている
男女貴賤ことごとく
弥陀の号を稱するに
行住坐臥もえらばれず
時処諸縁もさわりなし
「高僧和讃」



「落語で大笑い小笑い」

◆今年に入り、すっかりはまってしまったものがあります。それは「落語」です。福井で開かれたある落語会に行き、生で聴く落語の面白さ・迫力に「落語ってこんなにすごい芸だったんだー」とすっかり魅了されてしまいました。

私の周囲では、落語を聴いている同年代の女性は何と一人もなく、今は義父が所有していた落語 CD 集を通勤中や寝る前に聴きながら一人ニヤニヤ喜んでいるのです。特に疲れが溜まってくると「あ～落語聴きたいな～」なんて思うのです。

どうしてこんなに好きになってしまったのか考えてみると、まず落語家さん自身が面白い。どの方も、どこかひょうひょうとしていて、そこに座っているだけでおかしくて愛嬌があるのです。

そして話に出てくる人物が面白い。世間知らずの若旦那、一生懸命すぎて可笑しい職人さん、ずるいんだけどどこか憎めない長屋の人々..。



忙しく過ぎていく毎日の中で、落語は、私を話の中の時代、“テキトーなユルい”世界に連れて行ってくれるのです。こんな短い時間で、笑ったりじーんとしたり、感心したりできる娯楽、他にあまりありません。「笑う門には福来る」..。ますます落語の深みにはまりそうです。(C)

雑記 この冬は予想された通りの目まぐるしさでした。一月後半から二月下旬までは西光寺婚礼関係。同時に三月初旬の震災追悼行事の企画と準備も平行。事務局として連日遅くまで段取り作業に忙殺されてしまいました。

恒例の花粉も到来。お見苦しい点ご容赦を。毎号、紙面作りはバランスや内容に悩みつつ。ご意見ご要望是非お聞かせ下さい。ご質問も大歓迎！(S)

おてらで、まったりカフェ vol.4 開催！
 ★5月9日(土) 午後2時～4時頃／報恩寺
 ★写仏写経体験、ミニ法話 etc.
 入場無料！詳細別紙チラシ参照



★TERRAねっと作・メッセージ入り散華(二部)

